

令和6年度 総務常任委員会行政視察報告書

1 視察日

令和6年10月15日（火）、16日（水）

2 視察先及び視察事項

鯖江市役所 福井県鯖江市西山町13番1号

鯖江市役所 JK課プロジェクトについて

坂井市役所 福井県坂井市坂井町下新庄第1号1番地

ふるさと納税の取組みについて

3 参加者

委員長 長岡 文男

副委員長 清水 敏夫

委員 森藤 文男 みずの まり 和田 樹典 北山 浩樹

随員 市長公室長 河合 保隆

議会事務局議会総務課長 野田 知孝

計8人

4 視察内容

(1) 鯖江市役所 JK課プロジェクトの取組みについて

説明者 鯖江市市民生活部 市民主役推進課 渡辺 敏広

対 応 鯖江市市議会議員 副議長 遠藤 隆

鯖江市議会事務局 次長 高橋 藤憲

鯖江市議会事務局 主任 左近 亮太

※ 参考 鯖江市人口 68,315人（2024年9月1日）、面積84.59km²、議員数20人

○ 鯖江市の概要、視察事項

鯖江市は福井県のほぼ中央に位置し、北は福井市、南は越前市に隣接している。東西約19.2キロメートル、南北約8.3キロメートルにわたる地域のうち、その多くが平坦地であり、東部および南西の一部が山地となっている。市の中央を低い丘陵が南北に細長く延び、これに沿って市街地が形成されている。産業は「めがね」とともに「SABAE」の名は、広く世界に知れ渡っている。鯖江産地は、チタン合金や形状記憶合金などの新素材開発に代表される品質重視のものづくりに取り組んできた結果、眼鏡枠では国内の約90パーセントの生産シェアを持つまでに成長している。鯖江市では平成15年に「鯖江市市民活動によるまちづくり推進条例」、平成22年に「鯖江市市民主役条例」を市民提案から創り上げ、早い時期から「市民



鯖江市役所における視察

主役「市民協働」のまちづくりを進められている。様々な情報とまちづくりへの思いを共有化しながら、「自分たちのまちは自分たちでつくる」という基本理念のもと、これまでに参加の少なかった女子高生が主役となったまちづくり推進プロジェクト「鯖江市役所 J K 課」が 2014 年に市内 2 校 13 人によりスタートした。若者参画のプロジェクトとして、これまで気づかなかった意見や視点を積極的に取り入れることで、地域活性化や魅力の向上に繋がっている。また、地域産業における女性の活躍も進められており、社会全体で男女が活躍できる環境づくりが積極的に行われている。

【J K 課 10 年のあゆみ】

2014. 4. 14 : 結成年 2 校 13 人 2015. 5. 2 : 2 期目 6 校 16 人 2016. 5. 25 : 3 期目 6 校 27 人
2017. 5. 20 : 4 期目 7 校 47 人 2018. 6. 19 : 5 期目 6 校 45 人 2019. 6. 20 : 6 期目 5 校 32 人
2021. 5. 31 : 8 期目 5 校 23 人 2022. 5. 24 : 9 期目 6 校 38 人 2023. 5. 29 : 10 期目 5 校 32 人
2024. 5. 23 : 11 期目 5 校 34 人

(2) 坂井市役所 ふるさと納税の取組みについて

説明者	坂井市総合政策部企画政策課ふるさと納税推進室長	藤田 智治
	坂井市総合政策部移住定住推進課兼企画政策課ふるさと納税推進室主査	小玉悠太郎
	坂井市総合政策部企画政策課ふるさと納税推進室主査	大森 千紘
対 応	坂井市議会	古屋 信二
	坂井市議会事務局次長	小澤 清和

※ 参考 坂井市人口 86,482 人（2023 年 5 月 1 日）、面積 209.9 km²、議員数 24 人

○ 坂井市の概要、視察事項

坂井市は福井県の北部に位置し、西は日本海に面し、東は勝山市、北はあわら市および石川県、南は福井市および永平寺町に接している。南北約 17 km、東西約 31 km におよぶ東西に長い行政区域で、南部を九頭竜川が、東部の森林地域を源流とする竹田川が北部を流れ、西部で合流し日本海に注ぎ込んでいる。中部には福井県随一の穀倉地帯である広大な坂井平野が広がり、西部には砂丘地および丘陵地が広がっている。観光資源が豊富で、東尋坊や芝政ワールド、三国温泉などが国内外から多くの観光客を集めていることが特徴である。

坂井市のふるさと納税の特徴は、寄付金を活用する具体的な事業が豊富であり、かつ、寄付者自身が支援したい具体的な事業を選べることにあり、寄付受入の基本的なスタンスは寄付者が応援したい事業を直接かつ具体的に選ぶ受付方法を採用している。また、市からは寄付に対する詳細な活用報告が行われており、寄付の使い道を通じて寄付者との交流を大切にしている。ここまでの取り組みができて背景には、ふるさと納税が始まった平成 20 年に、寄付金の使い道を議員や職員だけで決めてしまうのではなく市民と一緒に決めていく趣旨のもと、議員発議により制定された「坂井市寄付による市民参画条例」に基づき、寄付金の使い道が市民からの公募により実施されている。寄付金の使い道を事前に示すクラウドファンディング(CF)型のふるさと



坂井市役所における視察
「地方公務員アワード 2023」受賞
小玉氏より実践事例の説明

納税を採用した成功事例として、全国から注目を浴びるとともに広がりを見せている。ふるさと納税の受入額の推移については、平成29年度の4億5千万円から令和5年度には16億5千万円(105,318件)と大きく伸びている。市役所の組織体制については、総合政策部企画政策課内に「ふるさと納税推進室」が設置されており、市職員自らが返礼品サイトを整え、返礼品目の充実に取り組み、現在の返礼品目は1,200品目以上と充実している。また、寄付金の使い道を手紙で届ける方法で地域のファンを獲得し成功に導いている。

5 所感

○ 福井県鯖江市

鯖江市の「市民主役」「市民協働」を目指すまちづくりの代表事例である「鯖江市役所JK課」プロジェクトの取り組みについての視察であった。

JKプロジェクトを支えて来たものとして、牧野百男前市長(2004年10月～2020年10月・4期16年)の強力な鯖江愛や、奇抜な発想と企画提案をした若新雄純氏(福井市出身)と市職員の協力などがあり、JK課の画期的な誕生が新しい市民協働の形として化学反応し、成功を遂げたものと感じた。また、10年間継続していることも評価され“居場所”と“出番”に着眼点をおいたことは若者の共感を得た結果であり、継続の要因であると感じた。

将来的に若者へのシフトを掲げ、施策に反映しようとする観点から、中高生、特に高校生の参画がまちづくりに大きな成果をもたらしたものであり、郡上市でも若者の政策への参画に導くための参考にしたい。

○ 福井県坂井市

坂井市の「寄付による市民参画」による、ふるさと納税の仕組みについての視察であった。

寄附による市民参画制度の背景、目的、また条例の内容など、ふるさと納税に対する取組む意識と創造力の高さを感じるとともに、ガバメントクラウドファンディングの先駆けとも言える取組みに感心した。具体的な寄付金の使い道、アイデアの公募・採用、意思決定など、市民参加の機会を作っている点が特に素晴らしく、更には寄付を集める力、市民を巻き込む仕組みの完成度が非常に高いものであった。

寄附に対する返礼品の「事業者数」「アイテム数」「カテゴリー」を分厚くすることで、一定レベルまでは到達するが、マーケティングや戦略が高度化していることから、専門業者へ事業を委託する局面を迎えており、自治体間の競争で抜け出していくためのポイントとして研究し仕組みを深めていく必要があると感じた。

6 視察経費

視察費	265,430円(随行職員2名分旅費を含む)
一人平均	33,178円

以上、視察研修の主な結果について報告いたします。

令和6年12月20日

郡上市議会議長 森藤 文男 様

郡上市議会総務常任委員会
委員長 長岡 文男 印